

【現状と課題】

- 令和3年度卒業生の就職率は、前年度より1.3%(26.1%⇒27.4%)増加したが、目標としている数値(30%)と比べて2.6%下回っている。また、全国の就職率(30.2%)と比べ、3.1%の開きがある。
- 自立と社会参加に向け、生徒の進路に対する意識の向上を図りながら、多様化する産業に対応した進路指導に取り組み、就職促進と職場定着を推進する必要がある。
- 在籍している生徒の実態が多様化しているため、一人一人の実態に応じてキャリア教育の推進を図る必要がある。

【方策】

- ◇ 生徒が学習の成果を発表する機会や外部の方から評価を受ける機会を設ける。
- ◇ 広報活動を充実させ、広く県民や企業・事業所等へ大会の周知を図り、障がい者雇用や障がい者理解のきっかけをつくる。
- ◇ 企業から招聘した競技審査員と生徒との懇談の時間を設け、自立と社会参加につながる知識や技能、意欲の向上につなげる。
- ◇ 進路に関する学習等を通して、キャリア発達を促し、就労への意欲向上を図る。



【目標】

「特別支援学校作業技能大会」を通して、生徒の学習や進路に対する意欲付けを図り、生徒の取り組む姿を県民や企業等に伝える機会とし、福島の未来を担う人材を育成する。

「特別支援学校作業技能大会」の開催

【事業内容】

1 作業技能検定の実施

- ◇ 「ビルクリーニング」
- ◇ 「喫茶接客サービス」
- ◇ 「PCデータ入力」
- ◇ 「店舗販売(品出し・パッケージ)」



※ 規定の課題に取り組み、専門家による評価を受ける。

2 作業製品の品評

- ◇ 生徒による作業製品のプレゼンテーションを実施するとともに、専門家による評価を受ける。

3 あん摩施術の評価

- ◇ 生徒によるあん摩施術を実施するとともに、専門家による評価を受ける。

進路指導の充実

1 一人一人の進路実現を図る進路指導の実施

- ① 進路指導・就労支援に関する専門性の向上
 - ・ 進路担当者を中央の研修に派遣し、各学校へ研修内容を伝達する。
 - ・ 外部専門家を活用する。
- ② 産業現場等における実習の実施
 - ・ 地域企業等と連携し、実習を実施する。
 - ・ 産業人材育成課と連携し、特別支援学校早期訓練コースを活用する。

2 関係機関と連携した支援の強化

- ① 障がい者雇用と職場定着に関する企業等への発信
 - ・ 特別支援学校高等部の取組を、広く県民に紹介する。
- ② 障がい者就業・生活支援センター等との連携強化
 - ・ 各学校と障がい者就業・生活支援センターとの連携を図る。
 - ・ 労働局主催の「障害者就職面接会」へ参加する。
 - ・ 「県自立支援協議会就労部会」に参加し、各関係機関との連携を図る。



3 進路支援チーム会議の開催

- ① 各校進路指導主事による指導事例の研究
- ② 企業関係者との意見交換 (年3回)